

## 9. 静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業—平成 30 年の活動報告

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター 井上 有史

### まとめ

適切な診療が受けられるように拠点機関の診療体制を整備しつつ、より多くの患者さんが地域において適切な支援が受けられる様な医療ネットワークの整備を行政と協力しながら目指した。てんかん診療医療連絡協議会およびてんかん診療支援コーディネーターの配置を通じて、静岡県内でのてんかんに対する診療連携体制を強化し、種々の職種に対する研修を行い、市民公開講座と個別相談、相談体制の充実により患者と家族に対する相談支援、てんかんに関する正しい知識の普及啓発などを行った。

### 1. 概要

当院が『てんかん診療拠点機関』として静岡県より指定された平成 27 年 11 月 27 日から事業開始し、静岡県内でのてんかんに対する診療連携体制を強化するとともに、患者や家族の支援を含めた総合的な支援体制を県内で整備することを目的とし下記の事業を実施している。

- ・てんかん診療支援コーディネーター1名の配置
- ・医療機関相互の診療連携体制（ネットワーク）の強化
- ・患者と家族に対する相談支援
- ・てんかんに関する正しい知識の普及啓発など

より多くの患者さんが地域において適切な支援が受けられる医療ネットワークの整備を、行政と協力しながら目指している。

### 2. 活動状況

#### 1) 拠点機関の体制

##### ①てんかん診療支援コーディネーターの配置

精神保健福祉士 1 名を配置し、以下を業務とした。

- ・医療機関への支援
- ・関連機関との連携
- ・患者・家族への支援 ・県民への支援
- ・その他関係機関との連携・調整など

##### ②相談体制

専用電話回線（てんかんホットライン） 365 日体制を活用して、午前 9 時～午後 5 時迄専任者が対応、午後 5 時～午後 10 時の時間帯及び土曜・日曜・祝日は当直看護師長が相談に対応している。医師、薬剤師、ソーシャルワーカーがバックアップしている。メールによる相談には、内容に応じた職種が回答している。

##### ③治療体制

初診外来を 1 日 3 枠設け、小児科・精神科・神経内科・脳外科のバランスを考慮した 3 名の医師が最大 1 日 7 名対応している。てんかん外科手術の実施、小児科・精神科・神経内科・脳外科・リ

ハビリ科などによる集学的治療、長期脳波ビデオ同時記録検査の実施、CT、SPECT、MRIによる画像診断などを行っている。

## 2) 研修

医療関係者（医師、看護師、臨床検査技師、栄養士等）だけでなく、福祉、教育職、その他の関係する専門職にたいし、多数の研修を行っている。

また、脳波の検討会を静岡地区と中部地区で定期的に行っており、平成30年度は現在まで7回で、全体で129名（医師82名、臨床検査技師47名）であった。

3) 普及啓発活動 西部地域、中部地域、東部地域の3つに分けて県民向け・患者向けに、公開市民講座と個別相談を行っている。

## 研修

平成30年度開催日	研修会名称	対象者	研修内容	参加者数
平成30年8月3日(金)	第42回てんかん専門職セミナー	医療、福祉、教育職	小児専門職に必要なてんかんの知識	43名
平成30年9月7日(金)8日(土)	てんかん学研修セミナー	成人患者担当医師	成人てんかん診療の包括的医学講義	42名
平成30年9月29日(土)	てんかんに関する医師看護師等研修会	県内医師・看護師等(西部)	てんかん診療に役立つ知識	11名
平成30年10月11日(木)12日(金)	てんかん看護セミナー	看護師	てんかん看護に必要な技術・知識	35名
平成30年11月17日(土)	てんかんに関する医師看護師等研修会	県内医師・看護師等(中部)	てんかん診療に役立つ知識	12名
平成31年2月1日(金)2日(土)	小児てんかん学研修セミナー	小児患者担当医師	小児てんかん診療の包括的医学講義	
平成31年2月5日(火)	臨床検査技師脳波検査セミナー	臨床検査技師	脳波検査の原理、脳波読取、てんかん発症時の対応	
平成31年2月14日(木)	第43回てんかん専門職(成人)セミナー	医療、福祉、教育職	成人専門職に必要なてんかんの知識	
平成31年2月23日(土)	てんかんに関する医師看護師等研修会	県内医師・看護師等(東部)	てんかん診療に役立つ知識	

## 脳波検討会

検討会名	開催年月日	開催場所	合計参加人数	医師	検査技師等
H30年度					
第6回 静岡地区脳波検討会	H30.5.10	水 静岡済生会総合病院	32	18	14
第7回 静岡地区脳波検討会	H30.8.20	月 静岡県立総合病院	19	10	9
第8回 静岡地区脳波検討会	H30.11.1	水 静岡赤十字病院	22	15	7
		H30年度 参加人数(静岡地区)	73	43	30
H31年度					
第7回 中部地区脳波検討会	H30.4.11	水 藤枝平成記念病院	14	10	4
第8回 中部地区脳波検討会	H30.7.11	水 藤枝市立総合病院	15	11	4
第9回 中部地区脳波検討会	H30.10.31	水 島田市民病院	17	10	7
第10回 中部地区脳波検討会	H31.1.30	水 焼津市立総合病院	10	8	2

## 普及啓発活動

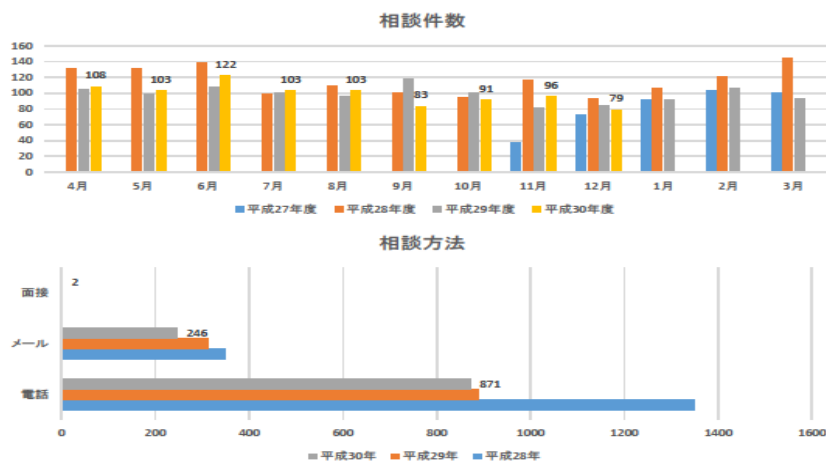
平成30年度(予定)	対象者	啓発内容	参加者数
平成30年11月18日	県民向け・患者向け(中部地域)	静岡県中部地域(静岡市)で、市民公開講座と個別相談	29
平成30年12月15日	県民向け・患者向け(西部地域)	静岡県西部地域(浜松市)で、市民公開講座と個別相談	22
平成31年2月24日	県民向け・患者向け(東部地域)	静岡県東部地域(沼津市)で、市民公開講座と個別相談	

### 3. 成果

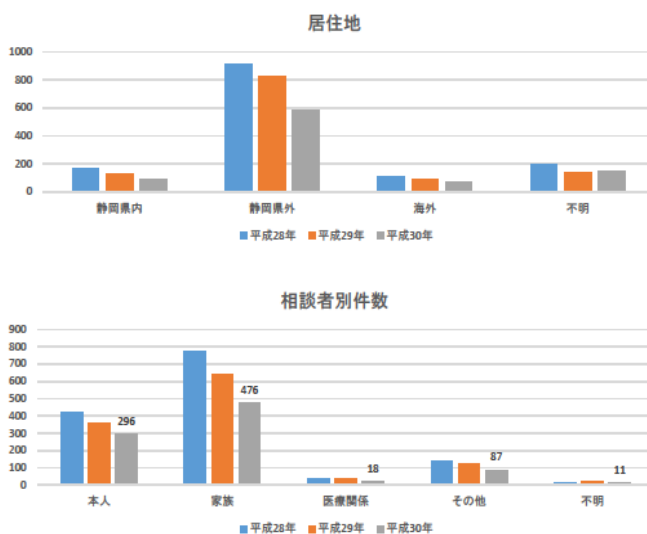
#### 1) 相談実施結果

月平均相談件数は、前年比横ばいであった。静岡県内からの問い合わせは、28年度 11.7%、29年度 10.2%、30年度 10.1%となっている。当院の患者さんは全国から来院されるためこのような結果となっている。相談経緯では、インターネットやHPで当院を知って相談される方が多い。相談内容は、受診相談、病状・治療相談が多い。

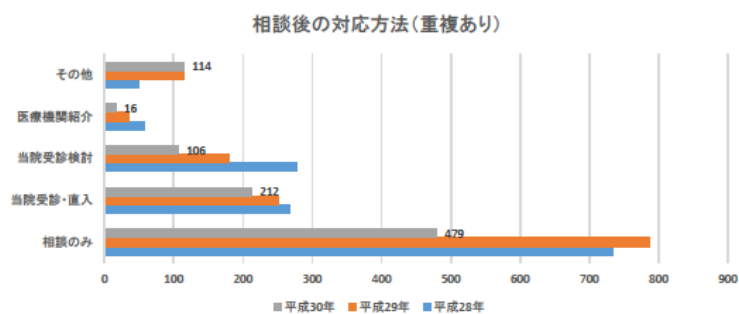
#### ➤ 相談実施結果(平成27年11月20日～30年12月31日)



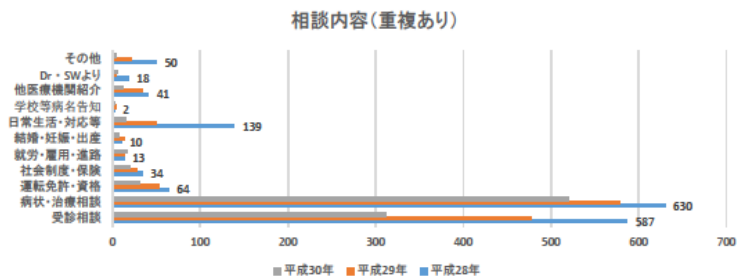
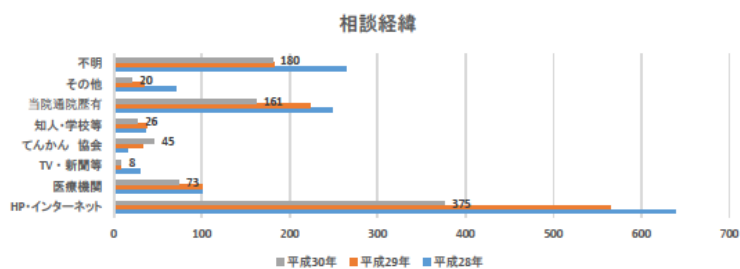
#### ➤ 相談実施結果(平成28年4月1日～30年12月31日)



➤ 相談実施結果(平成28年4月1日～30年12月31)



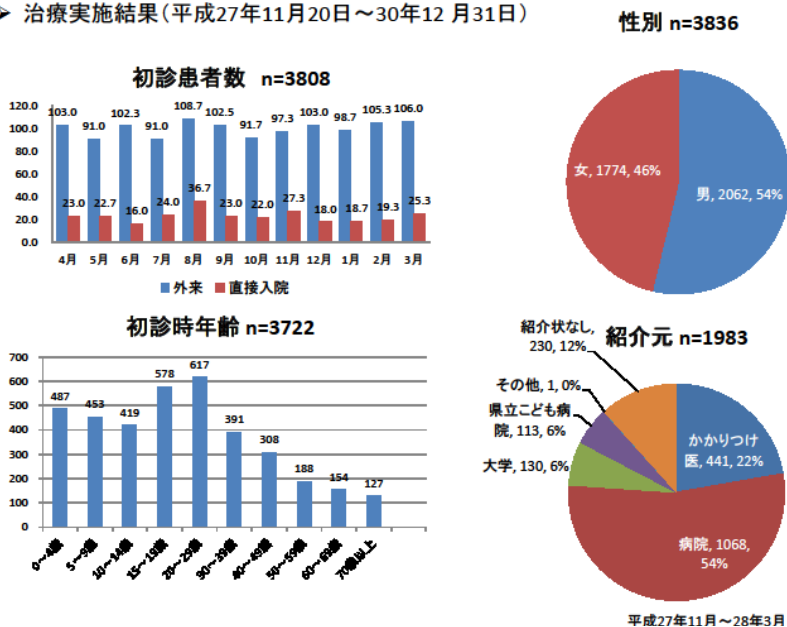
➤ 相談実施結果(平成28年4月1日～30年12月31日)



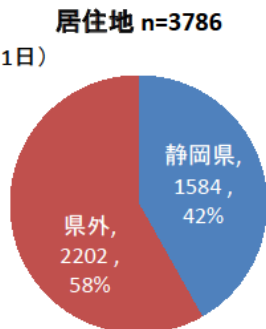
## 2) 治療実施結果

- ・2018年4月～12月の初診患者は975名で、前年と比較して、若干減少した。この間の入院は2366名であった。
- ・居住地は県外が多く（54.5%）、この2年間居住地県内外の比率に大きな変化はない。隣接する神奈川、愛知が多く、次いで東京、岐阜、三重が多い。
- ・受診目的は治療方針 43%、鑑別診断 36%、初診後の対応は紹介元へ戻す 48%、入院 25%、当院外来 17%で、この3年間受診目的、初診後の対応に大きな変化はない。
- ・422名の分析では、受診後に非てんかんと診断されたものは79名（19%）であった。

### ▶ 治療実施結果(平成27年11月20日～30年12月31日)



### ▶ 治療実施結果 (平成27年11月20日～30年12月31日)



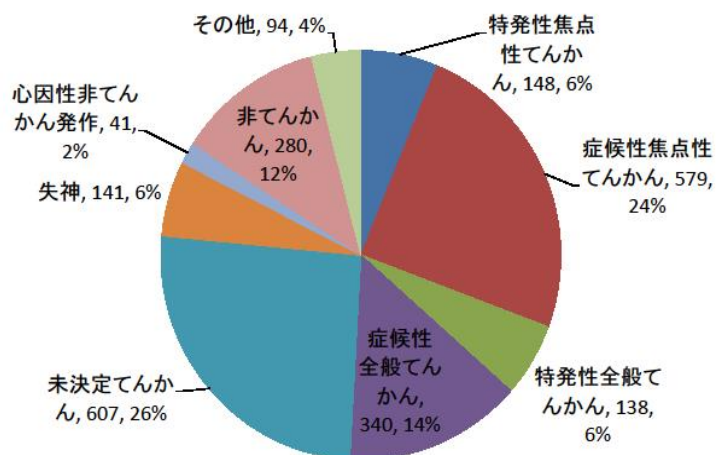
神奈川	愛知	東京	岐阜	三重	千葉	山梨	長野	大阪	埼玉
533	289	155	144	113	102	94	91	85	59
茨城	兵庫	群馬	栃木	和歌山	滋賀	福井	京都	福島	香川
50	35	35	32	23	19	18	15	13	13
福岡	広島	徳島	北海道	奈良	岡山	高知	鹿児島	富山	石川
11	11	11	10	10	9	8	8	8	7
沖縄	山口	愛媛	宮城	富山	青森	島根	大分	宮崎	新潟
7	7	6	6	5	5	5	5	3	3
秋田	山形	奈良	熊本	岩手	長崎	鳥取	海外		
2	2	2	2	2	1	1	6		

県庁間の距離：入院400km、初診300km、再診200km(85%以上の患者)

### 3) 研修会のアンケート実施結果（ご意見・ご希望）・・・H30年度分

- ・てんかんとあまりかかわりがいい人向けの初歩的な講義があれば良いと思いました。
- ・多職種で支援できるように今後も勉強していきたいと思いました。
- ・てんかんは内服が主な治療と聞いていたのですが、外科的治療もできることが知れてよかったです。

▶ 治療実施結果(平成27年11月20日～30年12月31日)



(今後取り上げて欲しいテーマ)

- H29年度 1位. てんかんの日常生活指導 2位. てんかんの診断 3位. てんかんの治療  
 H30年度 1位. てんかんの日常生活指導 2位. てんかんの診断 同じく2位. てんかんの治療

### 4) 市民公開講座のアンケート実施結果（ご意見・ご希望）・・・H30年度分

- ・医療職、介護職又は一般の医師も知らなければいけないかなと思いますので広めていただければと思います。
- ・どれも分かりやすい説明で良かったです。実演は今後にとっても役に立ちました。
- ・高齢者てんかんについてもっと広く知らせてくれるといいなあと思います。誰もがなる可能性はあるようですが、今後ふえていくというのに一般的な知識が情報が少ない。

(今後取り上げて欲しいテーマ)

- H29年度 1位. 子どものてんかん 2位. てんかんの日常生活 3位. 大人のてんかん  
 H30年度 1位. てんかんの日常生活 2位. 子どものてんかん 3位. てんかんの食事療法

## 4. おわりに

### 1) 要望

てんかん初診患者には、1名あたり1-2時間以上とかなりの時間を要しているため、1日数名の初診患者しか対応できない現状であることから、「てんかん診療拠点機関」としての診療報酬上の加算の新設を要望する。

- ・例えば、初診患者の診療において、拠点病院加算（〇〇〇点）のようなものの新設
- ・診療所等からの初診紹介患者を診療し、病名確定・診療方針の提供など治療連携計画を策定して、診療所等に返す場合の指導料を新設

また、治療連携を推進するためには、紹介元にも「紹介加算」などの診療報酬上の加算の新設が必要と思われる

## 2) 課題

・各都道府県の医療計画において、「てんかん」は明確なカテゴリーがなかったが、静岡県では、保健医療計画素案に「当院がてんかんの全域拠点機関とし、地域医療連携体制を構築します。」と明記され、地域連携拠点医療機関の整備も進行中である。てんかんは、精神疾患として扱われるため、「医療計画」並びに「地域医療構想」等において、一般病床で運営している当院をはじめ小児科、神経内科、脳外科など精神科以外の診療科間の連携体制の構築に留意する必要がある。

・本事業の周知を、国が率先して行って欲しい。特にかかりつけ医との連携の構築には、医師会への周知が重要である。

・本事業は都道府県との委託事業となるため、都道府県内の住民が拠点機関にどれほど相談・受診等したことが成果となる地域密着型病院としての立ち位置が求められるが、当院はてんかんセンターとして規模が大きく広域型病院としての面もあるため、県内の患者も県外の患者も増えることが望ましい。

・効果の指標として、拠点病院受診後の診断や治療の変更の有無、その結果の治療効果などを取り入れれば連携の効果がより明らかになる。そのためには年度をまたがった調査も考慮する必要がある。

## 3) 今後の取り組み

・当院はてんかん専門医療をはじめ 44 年の歴史と実績があります。てんかん診療拠点機関に指定され、静岡県（行政）と良好な関係を築き、静岡県内のてんかん地域診療連携体制の構築を目指します。静岡県内、そして全国の医療機関と連携しててんかん診療に積極的に取り組んでいきます。

・また、研修会や市民公開講座、個別相談会などてんかんに関する啓発についても、（公社）日本てんかん協会、日本てんかん学会、全国てんかんセンター協議会などと連携して、積極的に講師派遣をして活動に努めます。